

## 平成30年度第2回安全対策連絡協議会議事録

- 1 日時・場所 平成31年2月19日(火) 11時00分～12時05分  
於：在東ティモール日本国大使館多目的ホール
- 2 出席者(在留邦人18名、大使館6名、計24名)
  - (1) JICA関係者 5名
  - (2) 建設・コンサルタント関係者 4名
  - (3) 国連関係者 1名
  - (4) NGO関係者 3名
  - (5) 旅行業関係者 1名
  - (6) その他在留邦人 4名
  - (7) 大使館職員 6名
- 3 議事内容
  - (1) 冒頭挨拶(南大使)
    - ア 現在のこの国の状況を見ていると政権が不安定な状態にある。現政権は昨年6月に発足しているが、大統領が9人ほどの閣僚候補の任命を拒否している状況が続いている。政府予算案については本年1月末に大統領が承認したわけであるが、依然いくつかの閣僚ポストは空席であり、とりわけ主要閣僚である財務大臣や保健大臣が任命されておらず、政治的な行き詰まりは依然として続いていると認識している。これらが、経済状況にどのような影響を与えているかは関心を持っているところだが、少なくとも市内主要スーパーマーケットである KMANEK が閉店する見込みであり、Air Timor(Silk Air)のシンガポール便が3月末をもって運航終了見込みで代替便の目処も立っていない。加えて、ディリ・デンパサール間の航空運賃も3倍くらいに値上がってしまっている状況である。
    - イ 他方、社会状況はどうか言うと、ディリ市内の治安状況が悪くなっているとの印象はないものの、バウカウ等でマーシャル・アーツ・グループ(MAG)の闘争が発生したり、やや危険な兆候が見えてきていると感じている。
    - ウ 経済的状況との絡みでは、当国には産業が殆ど無いため、大学を出ても殆ど職に就けないのが一般的であることから、社会に不満を持つ若者達が過激な行動に出ないか心配しているところである。今年は当該状況を注視する必要がある、どのような社会変化が起こるかわからないというのが率直な感想である。
    - エ また今年は、1999年の住民投票から20周年と言うことでいくつかの式典が行われる可能性がある。具体的には、住民投票が行われた8月30日を中心に何ら

かの大きなイベントがあって、各国から要人が来訪する可能性があるのではないかと、また、INTERFET（豪州を中心とした多国籍軍）が9月20日に上陸しており、これも20周年と言うことで大きなイベントがある可能性がある。現在の豪州のコスグローブ総督がINTERFETの司令官であったので、総督と豪首相が9月20日に合わせ来る可能性があるのではないかと考えている。また、当地の国連事務所はアントニオ・グテーレス事務総長の来訪の要望を出しているとも聞いている。

オ 日本にあっては、大きなプロジェクトが今年完成する予定である。一つがディリ港、もう一つがUNTL（東ティモール国立大学）工学部Heraキャンパスであり、その機会を捉え日本から要人が来てもらえたらとの希望を持っている。

## （2）東ティモール内政の動きについて（政務担当）

ア 昨年6月にルアク首相の下、第8次立憲政権が発足したわけであるが、閣僚就任において9人の閣僚候補者に対しル・オロ大統領が承認せず、右状況は現在も続いている。この影響から、大統領の外遊（ポルトガルへの公式訪問、ニューヨークでの国連総会への出席）を国民議会が拒否し、大統領と政権との対立が表面化した。このような政治的不安定な状況下で、2019年の国家予算案が当初大統領により拒否された。当該予算案は21億ドルであり、一昨年の13.8億ドルより増額となっているが、これはグレート・サンライズ開発の権益を買収するための予算が盛り込まれたためである。

ル・オロ大統領は、国家予算が安定的でないことや、当該予算案が当国に必要な農業、保健、教育と行った分野に対する配慮が足りていないとの理由により拒否した。これにより、石油基金から支出されることとなったグレート・サンライズ開発権益購入資金は予算案から差し引かれ、2019年の予算規模は当初の案よりも減額され、2017年同様の約14億となった。2019年より始まる新たな5カ年計画において、財務、内務、保健大臣等主要閣僚9名が未就任のまま2019年予算を執行しなければならない状況は、当国において政治的不安定な状況が続くことを示しており、引き続き注視する必要がある。

イ 東ティモールから日本が労働者を受け入れるとの一部報道があるが、これについてはまさしくこれから検討する事案であり、例えば派遣人数等何ら決定されているものではない。

## （3）安全対策上の留意点（治安・警備担当）（別紙1参照）

ア お手元の事件・事故統計（2014～2018）をご覧願いたい。多くの犯罪、交通事故はディリ市内で発生している。事件件数も年々増加傾向にある。最近の事例については、依然として若者グループの衝突事案が増えており、主に夜間・早朝に発生していたものが最近では日中・夕方、夜の早い時間帯にも発生している。また、地域的には、昔からタイベシ・マーケット周辺やベボヌク（Bebonuk）、タシトルといった地域が多かったが、当該地域に限らず、幹線道路よりも脇道等の路地を通過

する際に事件に巻き込まれる可能性が高いと感じている。

イ ラマアンボン（鉄製の矢）による事件が発生している。ラマアンボンの現物をご覧願いたい。ゴム管のような弓で飛ばし殺傷力もあり，死亡事件も発生している。夜間，早朝は特に注意が必要で，ランニング中の者が被害にあう事件も発生していることから注意が必要である。

ウ 当館作成の「安全の手引き」を参考にし，安全対策を心がけていただきたい。主な注意点は次のとおりである。

(ア) まずタクシーがあげられるが，ご承知のとおり，タクシーには黄色のものと青色のものがある。ブルータクシーは比較的安全とされており，黄色に関しては複数での乗車を心がけること，特に女性の場合はセクハラ，強姦の被害も発生しているので注意が必要である。車上荒らしにあっては邦人の被害も発生しており，短時間でも車内に荷物を放置することは避けるべきである。また，観光地ではトランクに荷物を入れ放置した場合でも盗難の被害にあうこともあるので注意が必要である。

(イ) 路上を歩行中など強盗に遭遇した場合は，身の安全を第一として，小額現金を渡しその場から速やかに退避することも一案と考える。

(ウ) 二人乗りのバイクによるひったくりも発生しており，荷物をたすき掛けにする，道路より離れた側に荷物を置くようにする等自ら対策をとることをお勧めする。加えて，二人乗りのバイクは護身用に刃物を持っている若者が多いので要注意である。

(エ) セクハラについては，ビーチロードで多く発生しているが，ビーチロードに限らず若者が背後から襲うケースもある

(オ) 侵入犯に対して，室内の貴重品は必ず視界に及ばないところに管理する等住居対策を徹底すべきである。

(カ) 最近では，中国人に対する反中感情が発生していると聞いており，日本人が中国人に間違われ何らかの被害を被らないよう注意が必要である。

(キ) 銀行から現金を引き出した際，背後から何者かに付けられていないか注意する。

【質問 1】説明のあった，観光地で車のトランクに荷物を置いて車上荒らしの被害にあう事案と，路上等での強盗被害は，過去東ティモールで邦人に対し発生した事案か。

〔回答〕本事案は一般的な事案として紹介した。東ティモールで邦人が被害にあった事例はない。

【質問 2】最近のディリで発生した事件事例の中で，「二つの若者グループ同士の衝突」が多いが，当該若者グループは常に同じグループなのか。また，外見上各グループを識別できるのか。

〔回答〕現在敵対しているグループ（MAG）として，“PSHT”と“KERA・S

AKTI”が衝突しているケースが多い。また，“77”と“PSHT”又は“KERA・SAKTI”間の衝突もあるようである。外見上の識別（服装等）については、入れ墨を入れていることがあるようだが、グループカラー等はない。ティモール・プラザの駐車場で喪に服していることを示す黒いTシャツを着た若者が、MAGのメンバーに間違えられ暴力を受けた事例は聞いている。

#### (4) 医療情報（医務官）（別紙2参照）

今回は、病気の話、又は当地での生活に直接かかわるものではないが、「適応」という言葉を取り上げて話をしたい。

ア 「適応」という言葉は種々の用法を有している。

(ア) 「サボテンは砂漠に適応した植物だ。」

生物学的に使われる用語であるが、ある環境で生きていくのに有利な形質を有していること。

(イ) 「胃がんの手術は、ステージ（病期）によってその適応が異なる。」

臨床医学において、ある病気に対してどのような治療方法が有効かを論じる文脈において使用される。

(ウ) 「避難所での生活はプライバシーが無いので、避難者の中には適応しきれずアルコールに頼るようになる人も多い。」

精神医学において、ヒトが環境や状況に適合して、著しい葛藤や不安を体験することなく社会生活を営めることをいう。

イ 精神医学でいう「適応」

(ア) 環境や状況の変化への対処プロセス又はその結果、環境のように多くの因子が変化するものに加え、変化によって生じたもの（例えば、東京から大阪に引っ越した場合、方言の変化や使用する交通機関の変化など多大な環境変化があるが、その変化により様々な因子が変化するということ）。

変化によって消失したもの、例えば家族の死亡により、何かが無くなることにより環境の変化は生じる。

(イ) 一般生活の中で我々は「ストレスを感じる」との言い方をするが、例えば、仕事の中でストレスを感じると言った場合には、ストレスを感じさせる要因のものを「ストレッサー」と呼んでいる。我々がストレッサーにより感じているものが、所謂ストレスである。我々の体は、血圧とか血糖値等で、何か変化があっても一定に保つような生体内の仕組みがあり、例えば色々な外的なストレス因子があっても、健康状態に保とうとする働きがある。それを「ホメオスタシス」と呼んでいる。

ウ ストレス因子

(ア) 我々が生活していく中で様々なストレス因子が存在する。例えば、変化したものととして、海外赴任等で居所が変わることによる環境の変化、また、配置転換、

昇進や降格，経済的困窮，東日本大震災等に見るような自然災害により生命維持に必要な安全な環境が脅かされる場合や，自分自身の心身の変化，例えばがんの告知をされたときなどもストレス因子になり得る。

(イ) 参考までに，キューブラーロスというスイス出身の精神科医が，人間が死に関する告知をされたときにどのような心の変化が起きるかを書いたものを紹介すると，「否認→怒り→取引→抑うつ→受容」の五つのプロセスが書かれている。これは，キリスト文化の中で書かれた物なので，社会的，信仰的な背景に基づく考え方であると思われるので，必ずしも日本人にも当てはまるとは言えない。

エ ストレス因子に「適応」出来なかった場合はどのような反応になるのか。

(ア) もともとお酒を飲まなかった人が飲むようになったとか，飲む人が飲酒量が増えたりすることがあるが，学業や就労と言った社会活動が出来ていれば問題にならないと言われている。

(イ) うつ病の前段階として，うつ病を解消するためアルコールに依存していくこと，避難所生活による環境の変化により社会生活上に不都合が生じること（適用障害），また，原因がわからないままうつ病になるケースとして，例えば，脳疾患等が上げられる。

オ 「適応」が上手くいかない時の対策はどうしたらよいか。

(ア) 一番大事なのは，ストレス因子の除去であり，環境調整と言う。

(イ) ストレス耐性の向上（カウンセリング）

認知行動療法というカウンセリングを受けること。

(ウ) 著しい葛藤や不安の除去

当地に赴任しての経験から言えば，着任当初は当地の交通法規やルールをストレスと感じていたが，自分で自動車を運転するようになってからは，「いやなもの」から「こんなものなんだ」と自分を納得させ，ストレス因子に対する捉え方を変えてきている。カウンセリングを受けることで，ストレス因子を自分の中でどう捉えるか，その捉え方を変えることも期待できる。

【質問】 お酒は過大な量でなければ通常良いというものか。

〔回答〕 飲酒量は人それぞれであるが，仕事等社会生活に影響が出るようであれば，量を減らす，場合によってはドクターストップもあり得る。個人的な見解であるが，飲酒そのものは，ストレスを軽減する作用もあると思うので，環境に適用するなかでは必要な一面もあると思われる。

(5) 国際協力事業関係者の安全対策（経済・開発協力担当代理）

平成28年7月に発生したバングラデシュでのダッカ襲撃テロ事件を受け，国際協力事業者に関する安全対策の再検証が行われた。外務大臣の下で「国際協力事業安全対策会議」が設立され，5回に亘る会議を経て，その結果，外務省及びJICAは，報告書の内容を着実に実施し，国際協力事業に係る安全対策を強化していると

ころである。「最終報告書」は外務省のホームページに掲載されているので、是非ご一読いただきたい。

#### (6) 領事関係（領事担当）

##### ア SMS受診確認試験結果

2月12日（火）午前11時から、当館より皆さんの携帯電話にSMSを発信し、受診確認の返信をいただく形で試験を実施した。114人に対しSMSを発信し、94人から受診した旨の回答を得た。回答率は82.46%であった。SMS試験は昨年と同じ時期にも実施したが回答率が82.11%であり、今回も昨年と同じ割合で返信を得ることができた。

##### イ 「安全の手引き」の改訂について

この度、「安全の手引き」を改訂し、当館ホームページ（生活・安全情報）に掲載しているので、是非一読願いたい。

##### ウ 在外選挙人名簿への登録推進

毎回のお願いであるが、在外選挙人名簿への登録をお願いしたい。本年7月には、第25回参議院議員通常選挙が実施される予定である。今年度内に来年度予算が成立すれば、日本国内での投開票は7月21日（日）との報道もある。これにより、在外投票は7月上旬と思われるが、在外投票を行うためには、まずは、在外選挙人名簿への登録申請（在外選挙人証の申請）が必要となる。申請から交付までは約2か月を要するため、早めの申請をお願いする。

##### エ その他（ディリ・シンガポール間のフライトについて）

###### 【情報提供】

ディリ・シンガポール間のフライトは3月末で終了すると言われており、現在はシステム的にも航空券が発券できない状況となっている。3月末までの予約は入っている状況のようだが、3月30日の便が最終となるのか、または、その前の週末までは明らかでない。他のフライトの情報であるが、以前短期間で運行休止となったディリ・クーバン間のフライトについては、スリ・ウィジャヤ航空（ナム・エア）が運航再開を模索している動きもあるようである。

現在、ディリ・デンパサール間の航空賃が高騰している関係で、より安価な移動ルートにつき照会を受けることがある。陸路インドネシア領のアタンブアまで行き、そこから空路クーバンを経由しデンパサールという方法も考えられるが、実際に安価かどうかは不明である。逆ルートで陸路東ティモールに入国する場合は、クーバンにある東ティモールの領事館であらかじめ短期滞在の査証を取得する必要があるとの情報がある。

###### 〔上記情報提供に関連して〕

前回（昨年9月）の本協議会でも披露した話だが、旅券紛失事案に関し、新たな旅券の発給を受ける暇が無い場合は、「帰国のための渡航書」を発給する場合はあ

る。当地の場合、仮にシンガポール便が無くなれば、自ずとデンパサール経由となり、ご承知のとおり、デンパサール国際空港での乗り継ぎは、入国審査を受け一旦入国した後に、あらためて搭乗のための出国審査を受ける必要がある。インドネシア側の見解としては、「帰国のための渡航書」（IC旅券でないトラベル・ドキュメントの位置づけ）の場合、インドネシアの入国査証を事前に取得する必要がある。当地インドネシア大使館を往訪し情報収集したところ、同大使館には査証の発給権限が無く、インドネシア・ジャカルタにある出入国管理事務所の本部での審査となり、約2週間が必要との説明であった。他方、我が方大使館での日本旅券の発給はどうなっているかというところ、当大使館には旅券作成の機械が無く、外務省で新たに作成された旅券が送付されてくるため約2週間程度必要となる。

【南大使補足】前例では、「帰国のための渡航書」によりデンパサール便の搭乗手続きを行おうとしたところ、空港で搭乗を拒否された経緯がある。仮に旅券を紛失した場合当地では新たな旅券の発給には2週間以上を要する。シンガポール便であれば「帰国のための渡航書」でも搭乗出来るが、デンパサール便であれば当地で足止めされることになるので、出張者等関係者に対し注意喚起願いたい。

【質問】デンパサール国際空港は、預入れ荷物が無い（手荷物だけ）場合、イミグレーションを通らずに空港内で乗り継ぎが出来る可能性はないのか。

〔回答〕経験では、預入れ荷物の有無にかかわらず、入国審査を受け一旦入国しなければならぬと認識している。（他の参加者からも・・・到着のフロアにはトランジット・カウンターがあるが、人もおらず機能していない。手荷物だけであったが入国審査に誘導された。）

#### （7）まとめ（東本次席）

在外公館の最大の使命は在留邦人（短期渡航者含む）保護であり、日頃より当館も緊急事態訓練を行っている。当国で発生が予想される緊急事態には自然災害もあるが、直近の緊急事態オペレーション訓練は、「ニコラウ・ロバト国際空港で航空機が着陸に失敗し、多数の死傷者が出た」というストーリーでの大使館館員の対応振りを整理したものであった。

航空機事故を含め、緊急事態オペレーション時には、在留邦人安全確認作業が当館の最優先作業の一つとなるが、在留邦人の方からも、当地所属組織の同僚、出張者、知人・友人を含めた当地短期渡航者で連絡がつかない邦人の情報を当館に共有願うなど是非とも協力願いたい。

緊急事態オペレーション時の在留邦人等の安全確認作業にあつては、携帯電話、メール及びSMSが使用不能になる状況もあり得るので、その際は、連絡方法の工夫について当館から連絡をすることになるところ、右についても併せご理解の上、当館オペレーションへの協力をお願いしたい。

【質問】当地でのイスラム過激派等の活動の実態はどうか。

[回答] 当館では当国治安当局との意見交換業務もこなしており、同当局関係者からの話では、「インドネシアのイスラム教過激派グループ分子が自国当局の掃討作戦から逃れるべく、陸上国境である西ティモールと東ティモール西部国境付近を越えて当国入りする可能性は排除できず、インドネシア側治安当局と共に当国治安機関が国境合同警備を実施するなどして対応してきている。現時点では、東ティモールへのイスラム教過激派グループ分子の侵入事案はない」とのことである。

他方、留意すべきは、4月に予定されるインドネシア大統領・国会及び地方議会議員選挙である。インドネシア大統領選挙で現職に挑戦している候補者は、東ティモールがインドネシアに占領されていた時代に最も過酷な対応をしたと言われるインドネシア陸軍特殊部隊の司令官として東ティモールに駐屯経験がある人材で、同人大統領に選出されれば、インドネシア国内でのイスラム教過激派グループ締め付けが強まる可能性は高く、結果、イスラム教過激派グループ分子が身を隠すために東ティモールへの侵入を試みる可能性も高まるのではないかという懸念がある。

(了)